

江戸大2年稲葉千晴が 茨城空港応援大使に!

「茨城空港」稲葉千晴「チャレンジ力」。茨城空港の応援大使にメディアアコムニケーション学部マス・コミュニケーション学科2年の稲葉千晴が選ばれた。

「茨城空港?聞いたことない」。聞いたことはなくても読者の大半は必ず見て、と断言しておこう。今年では年末恒例になつて、茨城空港は平成22年3月11日になつた方は多いはず。一昨年、に放送されたものだが、そのロケ地となつたの



(上) 茨城空港展望デッキ、デッキからはジェット橋が見られる。(右) 小美玉文化館の1階で、茨城空港応援大使任命式。(左下) 茨城空港。撮影: 黒田真璃亜、山田正広

【茨城空港】小美玉市に2010年3月開港。航空自衛隊百里基地に隣接。空港には本物の戦闘機が2機展示してあり、呼び物になっている。構内には小美玉市の特産品を置いた物産店もある。イベントも随時開催しており、県央の観光拠点として地域振興の一翼を担っている。2013年2月現在、神戸・札幌・那覇・上海行きのLCC航空便が就航中。2012年5月に累計で200万人を達成した。平成23年度の乗降客数は約30万人、その他にも約70万人が茨城空港を訪れた。平成24年度も利用者数は増加傾向にある。

ことを任務とする茨城空港応援大使になると、江戸川大学1年生(当時)、茨城県常総市育ちの稲葉千晴が任命された。

この情報を聞きつけた私たち江戸川大学学生記者は2月2日、小美玉市茨城空港促進協議会が主催する茨城空港応援大使就任式へと足を運んだ。場所はのどかな空気が漂う小美玉文化館の1階。[「学生が旅行に行きやすくなるように、学割制度が欲しい」と、学生らしい視点から稲葉は堂々と就任の挨拶をした。

応援大使の役割は三つある。茨城空港の利用促進、周知・イメージ向上、そして小美玉市のアピールだ。そう簡単にこなせるようなミッションではない。任期は2年間。稲葉と世代別に選ばれたほか2名の応援大使、計3名で茨城空港をリードしていく。

稲葉の所属はマス・コミュニケーション学科。江戸大生なら誰もが知っているbayfmの「bay Girls campus」にも出演している。ほかにもたくさんの課外プログラムに参加している。

「夢を見つめるため、興味を持ったことになんでも挑戦してみたいんです」と稲葉。

これから2年間茨城県の代表として茨城空港を全国へとPRする。不安な気持ちと嬉しい気持ちどちらの気持ち強いのか。

「嬉しい気持ちです。自分自身のいろんな面を高められるよいチャンスかな」大人しそうに見える風貌とは一転、どんな質問にも力強い答えが返ってくる。

旅客に空の旅を提供する空港本来の目的が順調な茨城空港。いっぽうで「ガキの使いやあらへんで」をはじめ、「相棒」や「悪夢ちゃん」などのTVドラマにも積極的に協力している。また構内には特産品コーナーを設置したり、ライブやグルメリ美演販売などのイベントも開催している。

一言でいえばチャレンジ力のある空港なのだ。そんな茨城空港の応援大使にポジティブ思考の稲葉はびったりだ。稲葉なら茨城空港をさらに盛りあげてくれるに違いない。(文: 黒田真璃亜)

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課